

粟井地区の自主防災活動

広島県の豪雨災害を見聞きし、小学校の跡地利用で自主防災センターとしての機能の充実が急がれます。自治振の「防災安全部」と区長協議会とで早急に取り組むべき活動を検討します。義援金等も急がれます。

会議の報告

「地域安全推進員」委嘱式・総会・研修会(八月五日)
美作署管内地域安全推進員の委嘱式・総会・研修会が同署であり、美作市、勝央、奈義町、西粟倉村の109人が委嘱を受けました。粟井地区は、区長5人(班長・原)と横林秀樹氏、森安弘典氏の7人で、八日老人福祉センターで班会議をもち、伝達式を行いました。

粟井地区村創りの会・企画会(八月二十八日)

岡山湯郷の二に、レギュラーシリーズ優勝を祝い、「能登香清流米」を贈呈することが決まりました。

粟井自治振興協議会役員会(八月三十日)

九月二十七日(土) 能登香の家「小房・梶原・小野」作東老人福祉センター「粟井中・鷺巣・温泉管理人」の環境整備作業が決められました。

粟井地区社会福祉協議会役員会(九月一日)

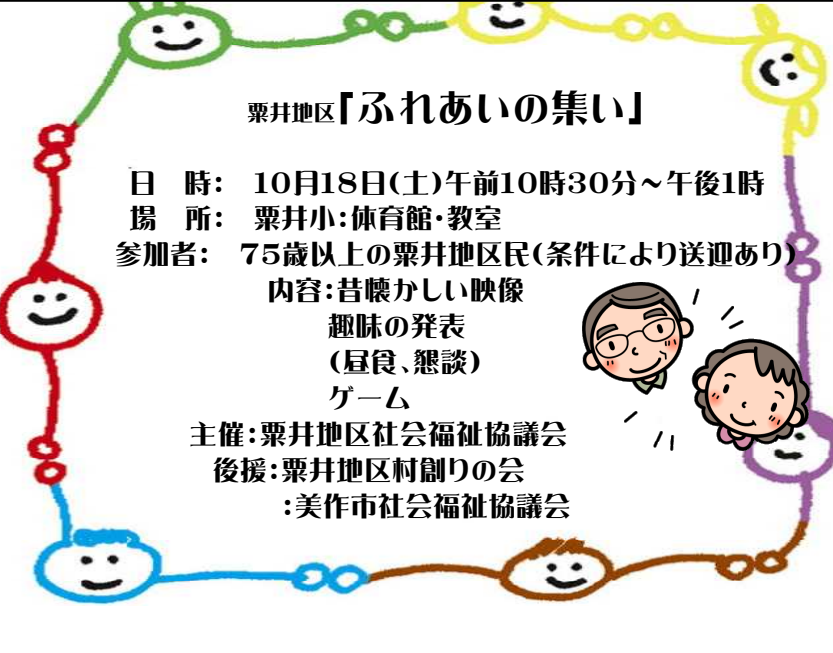
役員全員出席の下、「ふれあいの集い」の内容が固まりました。また、80歳以上の高齢者世帯にも「救急キット」を配る事が決まりました。敬老祝い品も決まりました。

粟井地区「ふれあいの集い」

日時: 10月18日(土)午前10時30分~午後1時
場所: 粟井小:体育館・教室
参加者: 75歳以上の粟井地区民(条件により送迎あり)

内容: 昔懐かしい映像
趣味の発表
(昼食、懇談)
ゲーム

主催: 粟井地区社会福祉協議会
後援: 粟井地区村創りの会
: 美作市社会福祉協議会



粟井地区村創りの会収穫祭準備会(九月二日)

十一月二日の収穫祭の内容が決まりました。この日は、会場の詳細や、出店依頼をする所などが協議されました。また、役員も不足しています。理事の方は全員ご協力下さい。当日は、みんなで楽しく収穫を祝しましょう。

粟井地区村創りの会・岡山湯郷へ

能登香清流米を贈呈(八月三十日)



岡山湯郷の二のみなさんのプレナスなでしこリーグ2014レギュラーシリーズ優勝を祝い、また、上位リーグ・エキサイティングシリーズでの優勝を願って、粟井地区村創りの会より、「能登香清流米」を贈呈しました。贈呈時にはスタンドから拍手でした。



秋の収穫時に、趣旨に賛同される皆さんから寄付を受けたいと思います。皆さんのご協力よろしくお願いいたします。

能登香短歌会について

お待ちしています。



能登香短歌会 松井洋子
能登香短歌会は現在14名の会員があり、粟井教育集会所で毎月一回第四金曜日の午後一時半より二時三十分程度講座を開いてあります。受講生はベテランから三年目の人まで、年代も六十代より九十代まで幅広く受講してあります。講師は関内博先生で初心者にも懇切丁寧にご指導下さいます。とても褒め上手で、みんな和やかな雰囲気の中で楽しくて、それを批評、添削して短い短歌に仕上げたい。また、他に山陽新聞や作東の文化に掲載されたり、文芸展に展示されたり、短歌は自己との対話です。目の前の情景を描写したり、感情や思いを三十一文字に込めて詠みます。歳を重ねるほど、又、経験があればあるほど思いは深くなり、味わい深い短歌が生まれるようになります。短歌を詠むことにより、自然や身辺をより深く洞察するようになり、世界が広がる思いです。用意するものも紙と鉛筆のみで気軽に書き始めやすいのも魅力です。又、字を書くことにより漢字を思い出したり、意味を調べることににより、脳の活性化により頭の体操にもなります。中高年の方にはとても良い趣味と言えます。短歌と言えどかく敬遠されがちですが、誰でも取り組みやすいものです。平日頃の感動を表現すれば良いのです。ときめきや一瞬のひらめきを大切に、感じたことを言葉にします。短い詩と表現すれば良いでしょうか。難解な語句はいらず、素直なわかりやすい言葉が求められます。詠むことによつて何となく見ていた世の中が、違って見えてきます。皆様も短歌教室にいらっしやいませんか。自分の知らない世界が広がります。初心者大歓迎です。お待ちしております。

「今やらねばいつ出来る、わしがやらねば誰がやる。」
の言葉の様に後継者に期待している。
昨年十一月に粟井地区全戸にアンケートをし、地区の様子を見た。回収率52%で25名の方から、草刈り、耕耘の依頼があった。現在、依頼者と連絡をしたら、随時作業を行って、参考までに粟井字別の耕作放棄地3カ年の推移を確認されたい。
農水部
なくてはならぬ
土地と妻
粟井地区村創りの会・農林水産部
部長 梅澤紀之

雑感

自分たちの地域は、自分たちで守る。

粟井地区村創りの会が発足して一年になる。農林水産部部長としての役を受け、敢えて反対しなかつた。なぜなら、後継者村創りの会の人の情熱に深く賛同したからである。
世相が著しく変わってきた現在、若者達は年間10万人の者が都会に憧れて地方より出ていく。又、農業関係では三期十五年続いてきた中山間地域直接支払制度も2014年で終わるとしている。農水省がこの制度を評価した。96%の高い評価率を示し荒廃を食い止めたと言った。2015年第四期日本型直接支払制度実施を聞く。又、戦後続いてきた減反政策も2018年までに廃止あると言った。メリット、デメリット数多くあると思うが今後の検討も山積あるだろう。又、新しく農地中間管理機構が各都道府県に設立と聞くが、我々の零細分散農地の地域では農地保全の面で可能とは甚だ疑問である。

粟井の現状を見る度に、高齢化率も50%近く、限界集落を通り過ぎて限界危惧集落と言おうか、我々の地帯を心配してならない。農村をこれまで支えてきたのは利益ばかりではなく人や心にあつたのではあるまいか。
地域に営まれる農業は気候土壌等の特性を生かし、先人の知恵、工夫を積み重ねて来たものであり、この持続は農地を有効に活用しなくてはなるまい。先祖から続いてきた財産を荒らすことなく、格納庫の農機具を使いこなし、村民全員でこの能登香の里粟井村を、一人ひとり出来る時に出来る事をやり、地域を守り育てる事を再確認し、先人の方々に感謝もあり、努力しなければなるまい。ケセラセラでは駄目、共に汗して知恵を期待している。

地区	H 23 年	H 24 年	H 25 年
梶原	63610 m ²	63610	63610
小房	55577	55577	55577
小野	178881	181455	180312
粟井中	184205	184137	187453
鷺巣	52301	52301	51682
合計田畑	125193 409381	127671 409409	132422 406212
合計	534574 m ²	537080	538634